

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200851		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム ひらき		
所在地	宇部市開1丁目740-1		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町受理日	平成23年5月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひらきケアハウス施設内にある為、ケアハウス・デイサービス・ヘルパーセンター・障害者授産施設併設で各ご利用者様、住民との交流や年間行事へ参加されたり、駐車場兼広場への散歩は、悪天候除き日課となっています。むべの里5事業所のグループホームとの協力もあって、恒例の運動会やクリスマス会等ご家族様始め楽しみとされています。グループホームひらき独自詩吟教室・いけばな教室・大正琴演奏会等毎月楽しい会になっています。一段と高齢化され介護度も高くなり、意思疎通も困難となられていますが、残された人生を最後まで日々おだやかに過ごして頂きます様、尊敬の心でスタッフ一同勤めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月のケアカンファレンスで、利用者全員の介護計画に対する実施状況を確認、評価され、利用者一人ひとりの視点にたつての必要な支援を盛り込まれ、3ヵ月ごとに見直しを行って、サービスの提供に取り組みられています。利用者の誇りや尊厳を大切にしたい言葉かけに留意され、その人らしく幸せに過ごすことができるように利用者へ寄り添って支援されています。利用者は和やかな表情で自分のペースで食事をされたり、ゆったりと穏やかに過ごしておられます。大学生や中高校生の介護実習を受け入れられ、ケアハウスや障害者授産施設、地域ボランティア、家族会等とのつながりも深められて、開放的な地域密着型施設となるように取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時、日勤者は介護理念を、夜勤者は運営理念を唱和、毎週月曜日の朝礼は、今週の目標を発表して、意識して取り組む様、特に声掛けは言葉に注意する事を強調している。	地域密着型サービスとしての理念をつくり、玄関等に掲示し、申し送り時に理念を唱和して共有し、毎週理念に対する実践目標を作成して話し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事のお祭り、地域の盆踊りなど、地域の方々とのふれあいや詩吟教室、いけばな教室、大正琴演奏ボランティアなどの交流がある。	法人全体で自治会に加入し、地域行事に参加したり、法人の秋祭りに地域の人々も招いて交流したり、大学生や中高校生の介護実習、詩吟教室・生け花教室があり、大正琴等のボランティアの訪問など、地域の人々と様々な交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各団体、自治会の見学・相談はいつも受け入れて毎年各学校等の実習を受け入れている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	GH会議で各職員一人ひとり自己評価を実施し、一緒に時間を取って取り組んでいる。評価結果は運営推進会議で報告・改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、管理者は自己評価書を職員に配布し、自己評価作成会議を開催して職員で話し合っ作成している。お互いに話し合うことでサービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GH合同運営推進会議含み年6回実施している。家族会も兼ね利用者全員参加、家族も年々参加が多くなっている。	地域相談員、ケアハウス利用者、地域包括支援センター職員、ボランティアの方、家族会員、利用者、管理者、職員等で2ヶ月に1回開催し、状況報告、クリスマス会や合同運動会、敬老会等の打ち合わせ、口腔ケアの話、外部評価報告等で意見交換をしてサービスに活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には、相談して課題解決できるように取り組んでいる。	市の担当者とは、介護保険制度に関する問い合わせや利用者の処遇に関する相談に立ち寄ったり、電話などで、情報交換を行なうなど連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やGH会議等で職員一人ひとり理解し、把握して抑制や拘束しないケアに取り組んでいる。	内部研修で全職員が身体拘束の内容や弊害を理解し、スピーチロックにも注意し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠しているが、外出の気配を察知したら早めにこまやかな対応をし、一緒に散歩に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者始め職員は制度を理解して、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度家族から相談があって、アドバイスして成年後見制度利用され、公私共学ぶ機会を得た。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所相談時や契約・退所時含め家族には十分な説明し又段階的に期間を作り理解・納得して頂くように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情があれば、十分に受け止め、運営に反映に努めている。来園時に日常のケアのことなど、報告・相談している。	面会時、電話、毎月の便り、家族会、運営推進会議などで、家族等の意見や要望を聞き運営に反映させている。苦情相談窓口や担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や家族の相談・要望あれば、聞く機会を設け上司、代表者と相談し努めている。	管理者は、職員会議や日々の業務の中で職員の意見や提案を聞くように心がけており、出た意見は話し合っって検討し、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間通して人事考課実施し執務態度チェック全般にわたり、向上心を持って働ける環境作り等整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修始め、ひらき全体会議・GH研修・GH地域連絡会議での研修等参加して取り組んでいる。	毎月1回法人のグループホーム職員レベルアップ研修会を開催している。外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供し、参加者は復命している。本年度は「職員間の連携づくり」に取り組んで職員のレベルアップを図っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各外部研修始め、交流の機会を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者から不安なことの相談・訴え・表情などから、傾聴・受容して安心して過ごしていただける為、関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人に対して入所以前の生活歴や特記等、家族・ケアマネから報告、相談の中、一緒に解決できるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりの状況を把握して家族と一緒に良い策を考えて対応に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はお願ひし、各行事や食事等は一緒に楽しい雰囲気つくりして日々の生活の場を支え、支えていただく関係に努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事(家族会・運営推進会議・外出・手作りおやつ、料理等)に出来る限り参加いただきご協力の中、家族との絆を大切にしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回必ず支払に来園された時、家族便り・写真送付等で近況をお知らせしている。年々家族の訪問が多くなっている。	自宅訪問、家族の面会、デイサービスの利用者との交流、お誕生会、スーパーへの買い物など、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の状況を把握して、日常のレクリエーション、手伝い等の中を孤立されない様に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状、ホーム便り・各行事の案内状を送付したり、時折相談ある時、快く受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日お茶の時間など個々人の思いや希望を聞き出来るだけ沿うように努めている。	日々の関わりの中で、利用者の言葉や行動などをケース記録に記入して思いや意向の把握に努めて職員間で共有している。把握が困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・知人・関係の方々より、情報得られたことをその人らしい暮らしに活かせるよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録により、その時々々の状態を把握し一人ひとり生活のリズムにあった暮らしが出来るよう十分気をつけている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のGH会議・ケアプラン会議実施し、職員全員で取り組み、家族や関係者からも事前にアドバイスいただくこともある。	毎月1回ケアカンファレンスを開催して全員の介護計画に対する実施状況を確認・評価し、3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行なって、本人や家族、主治医の意見などを反映させた介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録等の情報を共有し、ケアプランに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々に応じた柔軟な支援を図っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各行事やひらき全体で取り組み各教室に広く協力を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と検診実施、体調不良のときは、受診・相談の上、体調管理に努めている。	事業所の協力医療機関の他、本人、家族の希望するかかりつけ医への受診を家族と協力し、適切な医療が受けられるように支援している。協力医療機関の内科の医師は月2回往診、歯科と皮膚科の医師は月1回往診している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の健康チェックや施設の看護師と気軽に相談できる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者・本人・家族・ケアマネと情報交換し早期退院できることを努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と終末期に向けた方針明らかにし、話し合いの上、必要時は医師・看護師・家族・担当者交え終末期における契約書を交わすことになっている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を利用者や家族に伝えている。重度化した場合は、早い段階から主治医や家族と話し合い、方針を共有し、事業所でできる範囲の支援をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	定期的な防災訓練の参加や、事故防止について事故報告書・ひやりハット報告書の記録を一緒に再確認して事故防止に努めている。	ヒヤリはっと報告書や事故報告書に記入して検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練はしていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施。
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練実施し、地域・消防署の協力を得ている。夜勤帯が一番難しいと思われる。	年2回法人内で消火・通報・避難訓練(夜間想定は1回)を実施している。利用者や自治会などの地域の人約20人参加して一緒に消火器を使った訓練を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは、特に職員一人ひとり自覚し、対応している。	日々のケアの中で利用者の気持ちを大切に して、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮 した言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度希望や相談をして自己決定できるように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の勤務体制で1日のスケジュールがある程度決まっているが、就寝・起床・食事時間はマイペースで過ごされている。希望に沿った支援にもっと努めたい。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室、家族とデパートへ買物など、出来るように努めている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時の準備、盛りつけ、片付けを一緒に行っている。お茶の時間や昼食は、一緒に楽しんでいる。	朝食は事業所で調理し、昼食、夕食は配食となっており、準備や盛り付け、後片付けを利用者とともにし、職員は同じテーブルで利用者が食事が楽しめるように支援している。月1～2回利用者と一緒に団子などのおやつ作りをして楽しんでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を食べやすく変化したり、食事量・水分量のチェックにより、栄養バランスや水分の確保に一人ひとりに応じ支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施、食事前の口腔体操実施月1回訪問歯科による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を決め、トイレ誘導実施の利用者4名以外はほぼ自立支援できている。入院されて紙パンツ使用の利用者が以前の布パンツに戻る介護が今後の課題となっている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや見守り、トイレ誘導などを行ない、排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防は排泄チェックにより、個々に応じて予防に取り組み、便秘薬処方も活用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	勤務体制もあって15時～17時の間毎日入浴実施(1人は希望で1日おき、1人は家族希望でw/1の割り入浴)入浴剤等で楽しんでおられる。	入浴は毎日15時から17時まで可能である。入浴を嫌がる方には無理強いをせず、家族と相談したり、時間をずらしている。シャワー浴も行なうなど、一人ひとりの状態に合わせて入浴が楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間問わず、希望にあわせ休息や入眠出来るよう支援している。昼寝も体調によって誘導することもある。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は全て職員対応とし、薬の処方・量の変更されたり、状態変化みられるときは、医療機関と連絡図っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人に残存能力に合わせて、園芸のみずやり・夕食前の散歩・食事の準備・片付け・歌・ゲーム等活気ある日々を過ごしていただける様支援している。	花見、秋祭り、家庭菜園、学生やボランティアとの交流、詩吟、生け花、習字、歌、誕生会、花の水やり、おかずの盛り付け、洗濯物たたみ、ごみ出しなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨や悪天候以外は、毎日の散歩(広場)雨の日は館内散歩を日課としている。月1回の外出行事にも体調にあわせてできる限り全員参加を目指している。	天気の良い日の散歩、併設の授産施設での買い物や喫茶店行き、花見など、日常的に外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭は入所時家族の了解で持参されている。1人は希望の品購入の際、自ら自分の財布から、支払される。その都度家族には報告している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話や手紙のやりとり出来ることを支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんど9名の入所者様は、日中はフロアで過ごされている。アルバムを玄関口に展示しているのを楽しみにされたり、空間スペースに観葉植物や雑誌・季節ごとの飾りで季節感を取り入れている。	共用空間は広く、季節にあった飾りや観葉植物が置かれ、利用者の作品や写真を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。調理や盛り付けの様子が眺められ、利用者の集いの場になっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルから、TV観ながらおしゃべりされたり、玄関口設置のベンチを自由に利用され思い思いに過ごされる様工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが生活の場として、なじみの家具や椅子・仏具を配置され居心地よく過ごされる様工夫している。	エアコンが設置してあり、使い慣れたベットや寝具、テレビ、テーブル、椅子などが持ち込まれ、家族の写真や造花などを飾って自分らしく居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名前・トイレや浴室などに一目でわかりやすい表示をし、不安や混乱を招く要因に気をつけ、一人ひとりに合わせた工夫に努めている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームひらき

作成日: 平成 23年 5月 12日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	応急手当や初期対応の定期的な訓練実施	年間6項目を目標とし、月2回訪問看護師にアドバイス、勉強会実施	H23年5. 6月…傷の手当・止血法 7. 8月…転倒・骨折・応急処置 9. 10月…救急車へ通報・救命手当 11. 12月…感染防止、インフルエンザ予防 H24年1. 2月…事故発生時対応 3. 4月…まとめ	1年間
2	36	防災訓練	年間最低2回、ひらき全体訓練に夜間想定を実施	H23年3月31日…13:30～ひらき合同地震災害訓練実施済み 9月…グループホーム夜間想定訓練実施 11月…ひらき全体夜間想定訓練実施	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。